

不祥事根絶のための行動計画

【不祥事根絶に向けた三永小学校の決意】（行動基準）

- 1 私たちは、遵法、公正を守りぬきます。
- 2 私たちは、常識ある行動・行為をとります。
- 3 私たちは、自己研鑽に努め、真の教育を追求していきます。

東広島市立三永小学校
校長 大垣 由紀子

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員としての規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○定例的な服務研修に限られ、内容・方法に工夫が必要である。 ○社会人としての常識（マナー）について、学ぶ機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己のこととして考え、行動できる姿勢をもつ。 ○常に社会人としての認識と公教育に携わる職責の重さを自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての教職員を対象に服務研修に係るアンケート調査を行い、方法や内容等を改善する。 ○主体的な研修となるよう、自己の振り返りをさせる。 ○社会人としての常識（マナー）について学ぶ機会を設定する。 ○新聞記事等の不祥事情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回（前期1回、後期1回）、服務研修についてのアンケート調査を行う。 ○服務研修で、振り返りシートに記入する。
組織として相互に支え合う教職員集団の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止委員会を通じた組織的な工夫・改善が必要である。 ○教職員間で気軽に相談し合える職員室文化を創造する。 ○見通しを持って組織的に業務を処理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の諸問題等を一人で抱え込むことなく、組織的な取り組みをする。また、必要に応じて関係機関と連携をする。 ○気持ちのよいあいさつ・声かけを通して、教職員相互の親和的人間関係を深める。 ○業務改善を心がけて校務を処理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導をはじめとする指導上の諸課題について、教職員間で情報共有を図り、組織的な体制により解決を図る。 ○気持ちのよい「あいさつ」が行き交う学校環境を、教職員から発信する。 ○担当業務や役割を責任もって処理するとともに、組織力によって効率よく処理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○週に1回、教職員全体により、指導上の諸課題について、状況を把握する。 ○月に1回、不祥事防止委員会において、情報交換と取組の進捗状況を確認する。
早期対応・早期解決のための相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知はしているが、活用は十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談室での定期相談日を保護者や児童に学校だより等で周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員を対象とした面談を年3回実施する。